

## ～今なぜ「仮説検証」なのか～

- ・ 仮説検証ブートキャンプ 実行委員長
- ・ 組込みシステム技術協会(JASA)副会長 株式会社エクスモーション代表取締役社長 渡辺 博之



# 未知の挑戦に立ち向かおう！

～VUCAワールドを制するための短期集中トレーニング～

# 「仮説検証ブートキャンプ」



### ■ロゴマークに込めた思い

インフィニティイメージ（DevOps、仮説検証ほか）の核に人間中心デザイン of 取り組み（橙球体）を配置。  
仮説検証を繰り返した後、イノベーションとして、もしくは、適正解として社会へ飛び出していくイメージを付加

～今なぜ「仮説検証」なのか～

■ 「仮説検証ブートキャンプ」開催決定

「Edge Tech+」はこれまで、時代に合わせた人材育成プログラムを提供

今年からはVUCA※という掴みどころのない時代に、  
よりの確な目的（事業目標や商品像）を見つけるためのスキル

# 仮説検証

を効率的に実践できる新しい人材育成プログラムを提供いたします。

※VUCA：

（Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性）

## ～今なぜ「仮説検証」なのか～



### ■ 深まるVUCAワールド

VUCAとは、社会や経済状況が予測困難で変化が激しい状況を表す言葉

**Volatility (変動性)**： 技術革新などにより、社会やビジネス環境が急速に変化

⇒ 市場や環境が急速に変化するため、新しい視点や柔軟な思考が必要

**Uncertainty (不確実性)**： 人口動態や自然災害など、何が起きるか予測が困難

⇒ 未来の予測が困難であるため、確定的な論理的なアプローチだけでは対応が難しく、不確実性を含んだアプローチが必要

**Complexity (複雑性)**： 事業や活動、人と組織の関係性、資源などが複雑に絡み合う

⇒ 問題が複雑で相互に関連しているため、一部分だけを論理的に解決しようとすると、他の部分に悪影響を及ぼす

**Ambiguity (曖昧性)**： 事象の因果関係や解決策がはっきりしない

⇒ 情報が不足していたり曖昧であったりするため、論理的なアプローチだけでは解釈が難しく直感や洞察に基づく判断も重要

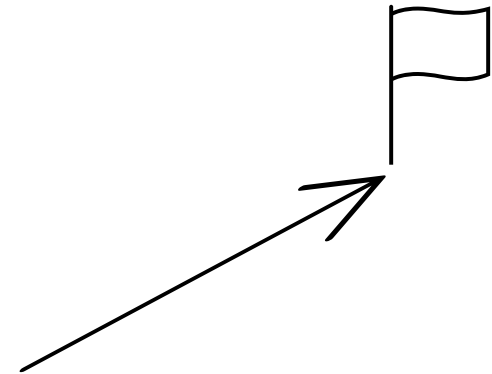
⇒ 過去のデータや経験に基づく論理的なアプローチだけじゃ通用しない時代に！

## ～今なぜ「仮説検証」なのか～

### ■ 問題解決のためのアプローチの変化

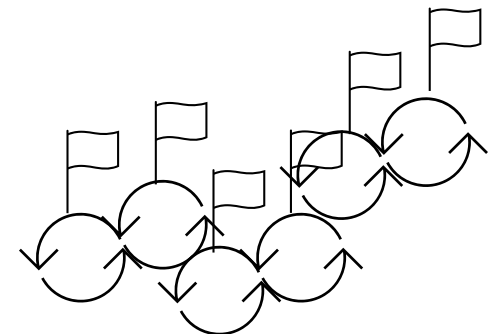
#### これまで

事実と論理に依拠  
因果関係を静的にとらえて問題の要因を抑えに行く  
予測可能  
目的を決めてそこに向かって突き進む  
ウォーターフォール型の開発プロセス  
⇒ VUCAワールドにはアンマッチ



#### これから

厳密な因果関係の整理は、要素の変化が絶え間ない世界では、あまり意味をなさない  
「仮説」の試行錯誤を繰り返し、最善の解答に至ろうとする  
予測が不可能  
走りながら考える  
アジャイル型の開発プロセス  
⇒ **VUCAワールドに必要とされる「仮説検証」型へ**



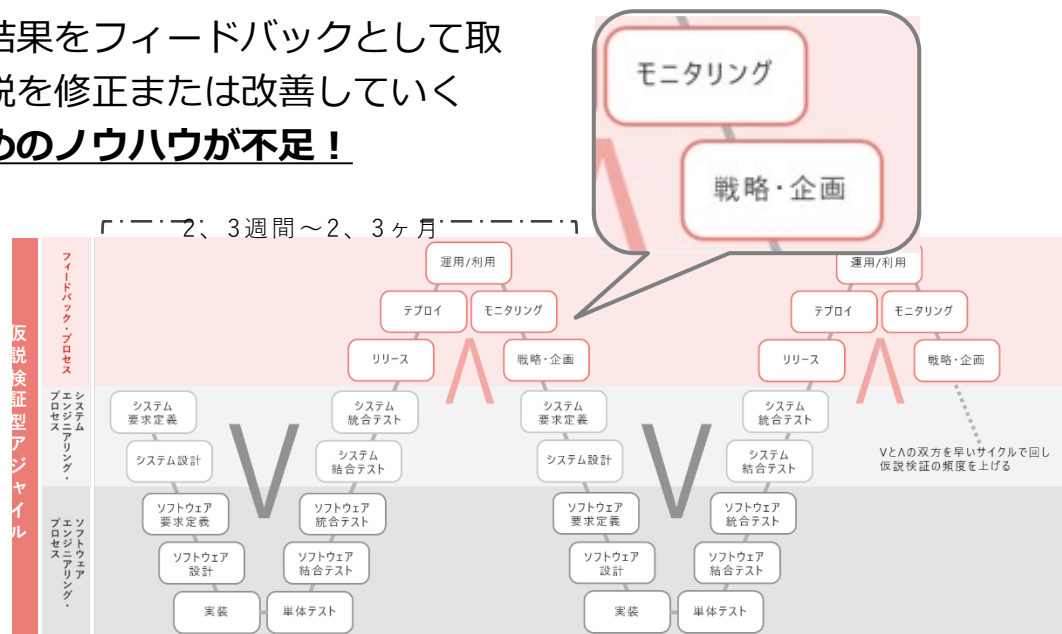
## ～今なぜ「仮説検証」なのか～

### ■ソフトウェアファーストの前提となる仮説検証型開発スタイル

顧客ニーズを素早くキャッチし、継続的に製品の価値を向上

新たな価値の提供や新技術の適用が迫られるような先が見通しにくい状況下では、仮説に対して迅速な開発を行い（=アジャイル）、リリース後のフィードバックから得られた結果を元に検証・改善を繰り返す（=DevOps）ことで、継続的な製品の価値向上を実現

仮説の実施結果をフィードバックとして取り入れ、仮説を修正または改善していく  
⇒ そのためのノウハウが不足！



## ～今なぜ「仮説検証」なのか～

### ■ 仮説検証の課題

古くから接してきた仮説検証には、以下のような問題が存在

- ・ 概念的で、開発現場での実践は限定的
- ・ 全ての開発案件に浸透していない
- ・ 多くはオープン系「猪突猛進」型
- ・ 作っては市場に投げて市場に受け容れられないケースが頻発
- ・ 検証情報として、「利用者の本質的な声」を有効に活用できていない



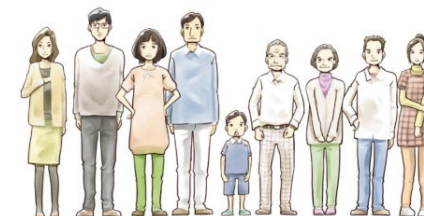
### ■ 人間中心デザインを通して真の仮説検証を学ぶ

#### 人間中心デザイン

人間中心デザインは、ユーザーのニーズ、能力、行動を理解し、それを製品やサービスの設計に反映するプロセス。ユーザーの視点を中心に置き、彼らの経験とフィードバックを通じて解決策を形成。

#### 仮説検証の精度を高める

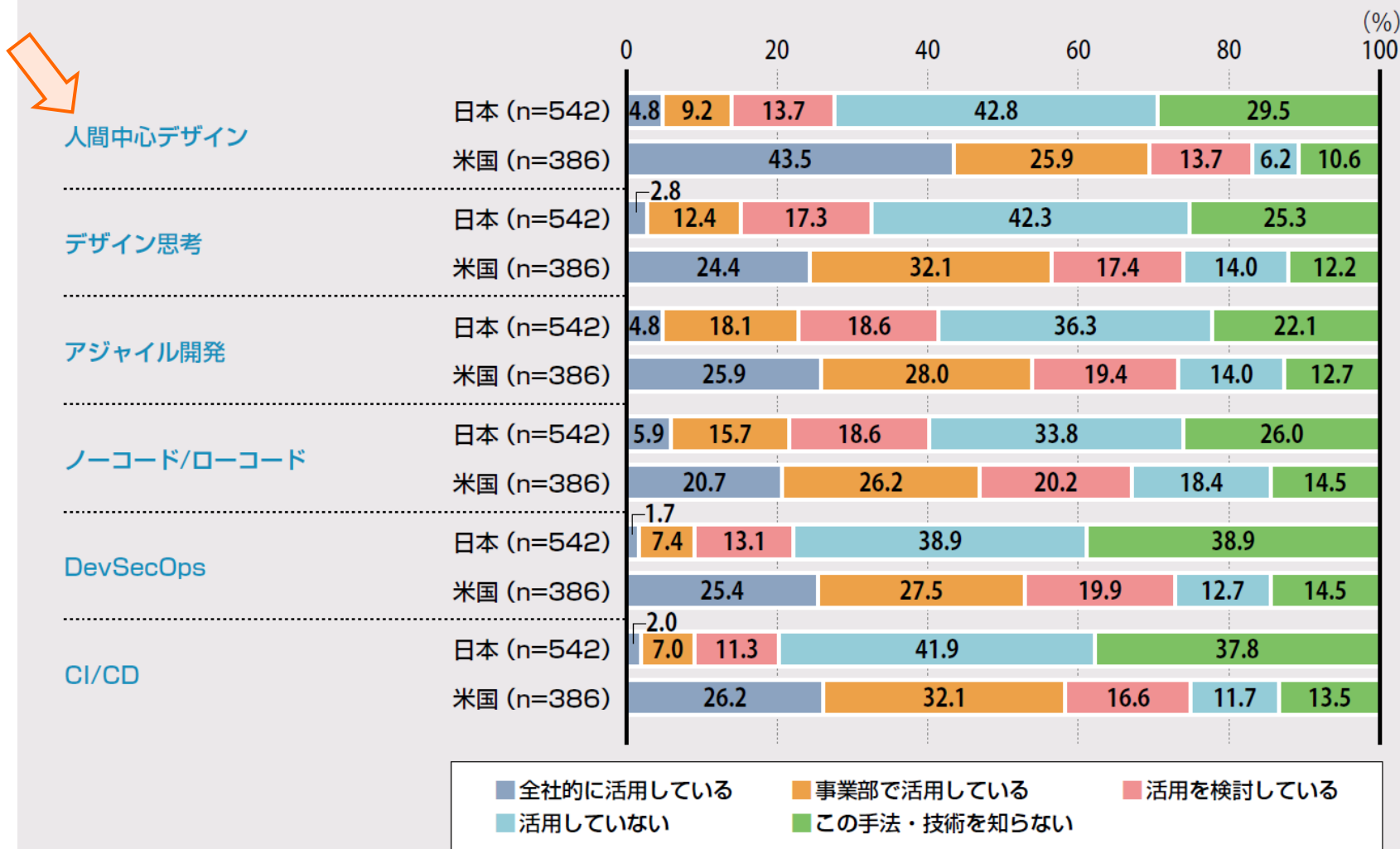
人の心、生活の本質情報を拠り所とする設計開発手段をベースにすることで、「利用者の本質的な声」に基づく真の仮説検証のスキル習得を目指す



## 参考情報：IPA DX白書2023

### 進み始めた「デジタル」、進まない「トランスフォーメーション」

図表1-29 ITシステムの開発手法・技術の活用状況(開発手法)



～今なぜ「仮説検証」なのか～

■ぜひこの「仮説検証ブートキャンプ」を活用してください！

「仮説検証ブートキャンプ」では・・・

企画、デザイン、設計、製造等、いわゆる開発に携わる人材だけでなく、組織強化を司る人事部門、顧客との信頼を構築する営業部門などこれまでのやり方が通用しなくなってきた部署の人材育成にもたいへん有効です。

このトレーニングを通して、社員は不確実性が高い環境でも、迅速かつ、的確な行動を取り、企業の成長に貢献することが出来るようになります。

社員のポテンシャルを最大限に引き出し  
ビジネスの成功を加速しましょう！